

原子力発電に係る論点整理について

原子力発電の必要性について

我が国のエネルギー資源の脆弱性や温室効果ガス削減要求を踏まえると、過度に化石燃料に依存することは困難と考えます。また、太陽光発電、風力発電などの新エネルギーも重要ですが、気象条件に左右され、エネルギー密度も低いという課題があります。エネルギー資源自給率も踏まえると、原子力発電はエネルギーミックスの一翼を担うベースロード電源として、一定の比率は必要であると考えます。

また、原子力発電所の新增設を進める諸外国からは、引き続き日本の技術力に対する高い期待があります。福島事故から得られた知見や教訓を踏まえて、シビアアクシデント対策を含め日本の原子力発電所の安全性を世界最高レベルに向上し、我々の経験を世界に向けて積極的に発信して世界の原子力発電所の安全性向上に貢献することは、我が国の責務と考えます。

核燃料サイクルについて

核燃料サイクルは、使用済燃料に含まれるウラン・プルトニウムを有用なエネルギー源として利用するものです。特に高速増殖炉サイクルは、天然ウランに99%以上含まれる燃えにくいウラン 238 を核分裂性物質に変えて燃料として利用できるため、1000年オーダーのエネルギー源として期待でき、資源に乏しい我が国にとって将来の安定的な準国産エネルギーとして重要であると考えます。

したがって、もんじゅや六ヶ所再処理工場などの運転経験を着実に積み上げると共に、より安全で信頼性の高い高速炉サイクルの実用化に向けて研究開発を進め、将来のエネルギー源の選択肢として核燃料サイクルを推進することは重要であると考えます。

原子力を支える技術基盤、人材の維持・向上について

原子力を支える技術基盤の維持・向上は、原子力発電所の安全性を継続的に高めていくために重要と考えます。人材を育成するためには、実務経験を積むと共に、研究開発を通じて新しい技術にチャレンジするなどの取り組みが必要です。また、技術力の向上を図るためには、研究開発を推進し、検証して確実にになった技術を実プラントに適用し、実績を積み上げていくことが重要と考えます。

以上